



ライオンボー

URL <http://www.ishikawa-c.ed.jp/~ushouh/yasuragi/>

TEL・FAX 0767-22-0345

今年の冬は、西日本を中心に何十年に一度という記録的な大雪となり、交通機関の混乱や集落の孤立など人々の生活に甚大な被害をもたらしました。羽咋の積雪量は平年より少ないくらいで、除雪作業にそんなに苦労する状況ではありませんでしたが、皆様方にはいかがでしたでしょうか。

通室生はインフルエンザや風邪に罹ることもなく、元気に教室に通って来ています。2名とも4月からの新しい生活に向け、目標を達成するために今、自分ができることを精一杯がんばっています。

思春期の生徒さんには、学校生活やその他の悩みを抱えている人も少なくないのではないかと思います。周りの人に相談したり自分自身で解決したりできれば良いのですが、そうでない場合、やすらぎ教室に相談したり、通室するのも一つの方法だと思います。不登校などの重たい問題ばかりでなく、ちょっとした悩み事についても気軽に相談できる場所だということを紹介していただければと思います。

月別相談延べ回数

2月の相談件数は24日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
来所相談	4	11	12	14	0	14	16	14	4	12	9	110
訪問相談	0	1	0	13	0	0	2	0	0	0	0	16
電話相談	3	1	3	7	1	3	6	9	2	1	1	37
合計	7	13	15	34	1	17	24	13	6	13	10	163

通室生の1日

現在、やすらぎ羽咋教室に2名の生徒が通室しています。通室生がやすらぎ教室でどのように1日を過ごしているか、紹介したいと思います。下の通室時間や活動内容については、生徒の要望に応じて柔軟に対応しています。

通室	～	9:15	フリータイム
9:15	～	9:30	ファームの水やり
9:45	～	10:30	学習 I
10:45	～	11:30	学習 II
11:30	～	12:00	交流タイム
12:00	～	12:15	掃除
12:15	～	13:00	昼食
13:00	～	13:30	リラックスタイム
13:30	～	14:30	スポーツタイム
14:30	～	退室	1日のまとめ

※ 通室日誌を書きます。

洋菓子づくり (2/24)

焼き菓子やケーキで有名な羽咋市の洋菓子店「ベルン」の川西明子さんを講師に招き「洋菓子づくり」体験学習会を行いました。シュークリーム
の生地とカスタードクリームを、材料の説明を聞き、作り方のポイント
を実演していただきながら、一つ一つ丁寧に作り上げました。受講者オリジ
ナルのシュークリームが出来上がり、家のおみやげに持って帰りました。

今回は通室生1名と各教室のスタッフ、羽松高校から6名が参加し、洋
菓子づくりを通して和やかに交流をしました。



最初に手順を教えていただきました



シュー生地を作っています



真剣に取り組んでいます



おいしそうなシュークリームが完成

教育現場に触れての雑感

金沢大学医薬保健研究域助教

臨床心理士 村松 朋子

『大人になることのむずかしさ』という故河合隼雄先生の著書があります。その中に、先生がスイスに留学されていた時のエピソードが書かれています。スイスでは、幼稚園から小学校に上がる時、落第する子どもがいることを聞き、日本ではそのようなことはあり得ないと伝えると、日本ではそんなに不親切な教育をしているのかと驚かれたそうです。スイスでは、ついていくのが難しい子は、幼稚園に戻してあげることが親切で、日本ではたとえ成績が悪くても進級させてあげるのが親切だ、という考え方は、西洋では個人に注目し、個人を前提に考えるのに対して、日本では子どもを全体として捉え、平等に取り扱おうとしている』と述べられています。どちらの考え方が正しい、というわけではありませんが、どちらか一方に偏り過ぎることには疑問を持ちます。

日本は今、大きな価値観の変化を求められているように思います。教育現場でも、仕組みをもう一度見つめ直していく時代に入っていくのではないのでしょうか。

『山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹(さお)させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい』(夏目漱石、『草枕』より)これは理屈だけに傾倒してもいけないし、感情だけにとらわれても、うまくいかない。さらには、こだわりがあまりにも強すぎると、バランスを欠くことになるというようなことを言っていると思います。

もちろん、社会の大きな価値観がすぐに変わることはありません。長い時間と努力が必要でしょう。自身の身近なところから考えていきたいものです。